

【第1部】基礎編 (Q1～Q20)

- Q1. 答え：過去「き」終止形 解説：「行き」連用＋「き」。文末で終止。「私は昨日、京に行った」。
- Q2. 答え：過去「き」連体形「し」 解説：「行き」連用＋「し」＋体言「人」。「行った人」。
- Q3. 答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」(原因) 解説：「行き」連用＋「しか」＋「ば」。「行ったので、人がいた」。
- Q4. 答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」(反実仮想) 解説：「見」連用＋「せ」＋「ば」＋「なまし」。「月を見たならば、心が慰められるだろうに」。
- Q5. 答え：過去「き」終止形 解説：「見」連用＋「き」。「昨夜、夢を見た」。
- Q6. 答え：過去「き」連体形「し」(カ変例外) 解説：カ変「来」連用「き」＋「し」＋体言「方」。「過ぎ去った(来た)方角・過去」。
- Q7. 答え：過去「き」已然形「しか」(カ変例外) 解説：カ変「来」＋「しか」＋「ば」。「友が訪ねて来たので、喜んだ」。
- Q8. 答え：過去「き」終止形 解説：「住み」連用＋「き」。「私は京に住んでいた」。
- Q9. 答え：過去「き」連体形「し」 解説：「思ひ」連用＋「し」＋体言「人」。「私が思った人」。
- Q10. 答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」(原因) 解説：「見」連用＋「しか」＋「ば」。「月を見たので、心が安らいだ」。
- Q11. 答え：反実仮想「まし」未然形「ませ」＋接続助詞「ば」 解説：「咲か」未然＋「ませ」＋「ば」＋「なまし」。「もし春が咲いたならば、雪が解けるだろうに」。明確な反実仮想構文。
- Q12. 答え：過去「き」終止形 解説：下二段「倒る」連用「倒れ」＋「き」。「嵐で倒れた」。
- Q13. 答え：過去「き」連体形「し」 解説：「渡り」連用＋「し」＋体言「僧」。「中国に渡った僧」。
- Q14. 答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」(原因) 解説：「降り」連用＋「しか」＋「ば」。「雨が降ったので、出かけられなかった」。
- Q15. 答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」(反実仮想) 解説：「学び」連用＋「せ」＋「ば」＋「まし」。「古典を学んでいたならば、どんなに賢かろうに」。
- Q16. 答え：過去「き」終止形 解説：「書き」連用＋「き」。「文を書いた」。
- Q17. 答え：過去「き」連体形「し」 解説：「嘆き」連用＋「し」＋体言「夜」。「嘆いた夜」。
- Q18. 答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」(原因) 解説：「隠れ」連用＋「しか」＋「ば」。「月が隠れたので、夜が暗かった」。
- Q19. 答え：過去「き」終止形 解説：「吹き」連用＋「き」。「笛を吹いた」。
- Q20. 答え：過去「き」連体形「し」 解説：上二段「過ぐ」連用「過ぎ」＋「し」＋体言「春」。「過ぎ去った春」。

【第2部】標準編 (Q21～Q50)

- Q21. 答え：サ変「す」連用形「し」(「き」ではない) 解説：サ変「ものす」(あることをする)の連用形。下に「給ふ」尊敬補助動詞が来る。過去の「し」ではない引っかけ。
- Q22. 答え：過去「き」連体形「し」 解説：上一段「見る」連用「見」＋「し」＋体言「夢」。

Q23. 答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ども」（逆接） **解説：**「しか＋ども」は「～たけれども」と逆接。「知っていたけれども、言わなかった」。

Q24. 答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説：**ラ変「あり」未然「あら」＋「せ」＋「ば」＋「まし」。「思いやりがあったら、どんなに哀れと思うだろうに」。

Q25. 答え：副助詞「し」（強意、過去「き」ではない） **解説：**「春が来ると」を強める副助詞。下に動詞「くれ」（カ変已然）が来る。直前体言で連用接続でないので過去「き」連体形ではない。

Q26. 答え：過去「き」終止形 **解説：**断定「なり」連用＋「き」。「親孝行な人だった」。

Q27. 答え：過去「き」連体形「し」 **解説：**「思ひ」連用＋「し」＋体言「こと」。「私が思ったことは、皆実現した」。

Q28. 答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説：**「鳴き」連用＋「しか」＋「ば」。「鶯が鳴いたので、春が来たと気づいた」。

Q29. 答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説：**「降ら」未然＋「せ」＋「ば」＋「まし」。「雨が降ったなら、行かなかったろうに」。

Q30. 答え：形容詞シク活用「楽し」連体形「楽しき」語尾の「し」（過去「き」ではない） **解説：**シク活用形容詞「楽し」連体形「楽しき」に含まれる「し」。過去の助動詞「き」と混同しないこと。

Q31. 答え：過去「き」終止形 **解説：**「御覧ず」サ変連用「御覧じ」＋「き」。「帝はご覧になった」。

Q32. 答え：過去「き」連体形「し」 **解説：**サ変「御覧ず」連用＋「し」＋体言「御文」。「帝がご覧になった御文」。

Q33. 答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ども」（逆接） **解説：**「しか＋ども」逆接。「月が隠れたけれども、なお見上げる」。

Q34. 答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説：**「知ら」未然＋「せ」＋「ば」＋「まし」。「事情を知っていたら、必ず告げただろうに」。

Q35. 答え：過去「き」連体形「し」（文末の連体留め） **解説：**和歌などで「ぞ・なむ・や・か」がなくても文末を連体形で結ぶ余情表現。「行く春を惜しんだ」。

Q36. 答え：過去「き」連体形「し」 **解説：**「見」連用＋「し」＋体言「人」。

Q37. 答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（順接確定条件） **解説：**「言ひ」連用＋「しか」（已然）＋「ば」。「物を言ったので、答えた」。

Q38. 答え：過去「き」終止形 **解説：**下二段「捨つ」連用「捨て」＋「き」。「父は世を捨てた（出家した）」。

Q39. 答え：過去「き」連体形「し」 **解説：**「思ひ」連用＋「し」＋体言「昔」。「そう思った昔」。

Q40. 答え：過去「き」已然形「しか」（カ変例外）＋接続助詞「ば」（原因） **解説：**カ変「来」＋「しか」＋「ば」。「友が来たので、酒を酌み交わした」。

Q41. 答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説：**ラ変「あり」未然「あら」＋「せ」＋「ば」＋「まし」。「私が若かったら、どうしただろうに」。

Q42. 答え：過去「き」連体形「し」（使役「す」連用「せ」＋「し」） **解説：**使役「す」連用「せ」＋過去「き」連体「し」。「私が書かせた書物」。

Q43. 答え：過去「き」終止形 **解説：**ラ変「あり」連用＋「き」。「命長く（生き長らえる）こともあった」。

Q44. 答え：過去「き」連体形「し」（カ変例外） **解説：**カ変「来」＋「し」＋体言「方」。「過去と未来」。慣用句。

Q45. 答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説：**「積もり」連用＋「しか」＋「ば」。「雪が降り積もったので、道が見えない」。

Q46. 答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説：**「あら」未然＋「せ」＋「ば」＋「まし」。「命があったら、また会うだろうに」。

Q47. 答え：過去「き」連体形「し」 **解説：**サ変「す」連用「せ」＋「し」＋体言「間」。「ぼんやり物思いにふけていた間に」。小野小町の名歌。

Q48. 答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説：**下二段「出づ」連用「出で」＋「しか」＋「ば」。「都を出たので、心細い」。

Q49. 答え：過去「き」終止形 **解説：**「栄え」連用＋「き」。「昔の世に栄えていた」。

Q50. 答え：使役の助動詞「しむ」連体形「しむる」の一部「し」（過去「き」ではない） **解説：**使役「しむ」は未然形接続。「行か＋しむる」。「し」は使役助動詞の語頭であり、過去「き」とは無関係。識別注意。

【第3部】応用編（Q51～Q80）

Q51. 答え：過去「き」連体形「し」（係り結び「ぞ」の結び） **解説：**「ぞ」係助詞→連体形結び。「知っていたのだ」。

Q52. 答え：過去「き」連体形「し」（係り結び「なむ」の結び） **解説：**「なむ」係助詞→連体形結び。「聞いたのだ」。

Q53. 答え：過去「き」已然形「しか」（係り結び「こそ」の結び） **解説：**「こそ」係助詞→已然形結び。「思ったのだ」。

Q54. 答え：過去「き」連体形「し」（係り結び「や」の疑問） **解説：**「や」係助詞→連体形結び。「見たのか（いや見していない）」。

Q55. 答え：過去「き」連体形「し」（係り結び「か」の疑問） **解説：**「か」係助詞→連体形結び。「聞こえたのか」。

Q56. 答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ど」（逆接） **解説：**「しか＋ど」逆接。「思ったけれども、言わなかった」。

Q57. 答え：過去「き」連体形「し」 **解説：**「捨て」連用＋「し」＋体言「家」。「私が捨てた家」。

Q58. 答え：過去「き」未然形「せ」＋「ましか」＋「ば」（反実仮想） **解説：**「せましかば～まし」は反実仮想の強調形。「もし行っていたら、悔やまなかつただろう」。

Q59. 答え：推量（婉曲・連体形）「む（ん）」 **解説：**「あら」未然＋推量「む」連体形「ん」＋「かぎり」。「命のあるかぎり、君を思おう」。

Q60. 答え：過去「き」連体形「し」 **解説：**「散り」連用＋「し」＋体言「ころ」。「桜が散ったころ」。

Q61. 答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説：**「病み」連用＋「しか」＋「ば」。「親が病んだので、看病いたしました」。

Q62. 答え：過去「き」連体形「し」 **解説：**「仕う奉り」連用＋「し」＋体言「君」。「私がお仕えした主君」。

Q63. 答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説：**「あら」未然＋「せ」＋「ば」＋「まし」。「もし神がいたら、なお祈るだろうに」。

Q64. 答え：過去「き」連体形「し」 **解説：**「聞こえ」連用＋「し」＋体言「人々」。「古に有名だった人々」。

Q65. 答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説：**「言ひ」連用＋「しか」＋「ば」。「言ったので、たいそう恥ずかしい」。

Q66. 答え：過去「き」連体形「し」 **解説：**「残り」連用＋「し」＋体言「思ひ」。「露ほど残っていた思い」。

Q67. 答え：過去「き」終止形 **解説：**「責められ」（受身「らる」連用）＋「き」。「自責の念に苦しめられた」。

Q68. 答え：過去「き」連体形「し」 **解説：**完了「たり」連用＋「し」＋体言「草」。「道のほとりに紫色に生えていた草」。

- Q69. 答え：**過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（順接確定条件） **解説：**「言ひ」連用＋「しか」（已然）＋「ば」。「ものを言ったので、聞き入れた」。
- Q70. 答え：**過去「き」連体形「し」 **解説：**「見」連用＋「し」＋体言「人」。「その後、影さえも見た人はいない」。
- Q71. 答え：**過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説：**「言ひ」連用＋「しか」＋「ば」。「『来るか』と言ったので、来た」。
- Q72. 答え：**過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説：**「知ら」未然＋「せ」＋「ば」＋「まし」。「私が知っていたなら、教えるだろうに」。
- Q73. 答え：**過去「き」連体形「し」 **解説：**「着き」連用＋「し」＋体言「舟」。「日暮れ時に着いた舟」。
- Q74. 答え：**副助詞「し」（強意、過去「き」ではない） **解説：**「命がかなしい」を強める副助詞。直前体言で連用接続でないので過去ではない。
- Q75. 答え：**過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ど」（逆接） **解説：**「思ひ」連用＋「しか」＋「ど」。「思っただけれど、口に出さなかった」。
- Q76. 答え：**過去「き」連体形「し」 **解説：**「見」連用＋「し」＋体言「夢」。「帝が見た夢にお告げがあった」。
- Q77. 答え：**過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説：**「吹か」未然＋「せ」＋「ば」＋「まし」。「風が吹いていたら、波も立っだろうに」。
- Q78. 答え：**副助詞「し」（強意） **解説：**「今ちようど散るだろう」を強める副助詞。直前副詞「いま」。
- Q79. 答え：**過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ど」（逆接） **解説：**形容詞「強し」カリ活用連用「強かり」＋「しか」＋「ど」。「気丈であったけれども、涙が落ちた」。
- Q80. 答え：**過去「き」連体形「し」 **解説：**上二段「恋ふ」連用「恋ひ」＋「し」＋体言「人」。「私が恋した人は、もういない」。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

- Q81. 答え：**副助詞「し」（強意） **解説：**「し＋ぞ」は強意の副助詞「し」＋係助詞「ぞ」。直前体言「旅」＋「し」＋「ぞ」＋動詞「思ふ」（連体結び）。「（こんな）旅をこそ思うのだ」。過去ではない。
- Q82. 答え：**副助詞「し」（強意） **解説：**「身にして」の「し」は強意副助詞。動詞ではなく副助詞。難関頻出の識別ポイント。
- Q83. 答え：**過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説：**「知り」連用＋「せ」＋「ば」＋「まし」。「夢と知っていたなら、覚めなかったろうに」。反実仮想の典型。
- Q84. 答え：**（過去「し」を含まない歌、参考問題） **解説：**この歌に過去「き」は含まれない。直前の問題からの転換例として「ぞ～思ふ」の係り結びを確認。
- Q85. 答え：**過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ど」（逆接）の「しか」 **解説：**「得」（下二段連用）＋「しか」＋「ど」。「便りごとに、品物を絶えず受け取っていたけれど」。
- Q86. 答え：**過去「き」連体形「し」 **解説：**完了「たり」連用＋「し」＋体言「人」。「東路の道の果てよりさらに奥のほうに育った人」。作者菅原孝標女自身。
- Q87. 答え：**（過去「し」を含まない、参考問題） **解説：**「たまひける」は「けり」連体形。過去「き」ではない。「き」と「けり」の混同に注意。
- Q88. 答え：**過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ども」（逆接） **解説：**「思ひ」連用＋「しか」＋「ども」。「立派な名馬だと思ったけれども、やはり売ってしまった」。
- Q89. 答え：**（過去「し」を含まない、参考問題） **解説：**「たる」は完了「たり」連体形。識別の引っかけとして確認。

Q90. 答え：過去「き」未然形「せ」＋接続助詞「ば」（反実仮想） **解説：**形容詞「なし」連用形「なかり」＋「せ」＋「ば」。文末の「まし」と呼応する反実仮想。「もし世の中にまったく桜がなかったならば、春の心はのどかだっただろうに」。難関頻出。

Q91. 答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説：**完了「ぬ」連用「に」＋「しか」＋「ば」。「に＋しか＋ば」は「～てしまったので」。「お亡くなりになってしまったので」。最頻出パターン。

Q92. 答え：比況の助動詞「ごとし」終止形語尾の「し」（過去「き」ではない） **解説：**「ごとし」（比況）は形容詞型活用で、終止形に「し」を含む。過去ではない引っ掛け。

Q93. 答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説：**丁寧「侍り」連用＋「しか」＋「ば」。「元暦の頃、大地震がございましたので、世にもまれな出来事だった」。

Q94. 答え：過去「き」連体形「し」 **解説：**「問ひ」連用＋「し」＋体言「時」。「『あれは真珠か何か』と人が尋ねた時に」。

Q95. 答え：使役「す」連用形「せ」（下の「し」が過去「き」連体形。「せ」自体は過去ではない） **解説：**四段「切る」未然形「切ら」＋使役「す」連用形「せ」＋過去「き」連体形「し」。「人を掟てて」（人に指図して）とあるので「（その人に）切らせた」という使役。「せし」と並んでいても「せ」が過去になるわけではない。難問。

Q96. 答え：（過去「し」を含まない、参考問題） **解説：**「つる」は完了「つ」連体形。「き」連体「し」との混同に注意。

Q97. 答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説：**尊敬「たまふ」連用＋「しか」＋「ば」。「ご自身もたいそう上手に舞いなさったので」。難関大の藤原道長関連頻出。

Q98. 答え：（過去「し」を含まない、参考問題） **解説：**「たまひぬ」は完了「ぬ」終止形。識別の引っ掛け。

Q99. 答え：副助詞「し」（強意） **解説：**「名に＋し＋負はば」の「し」は強意副助詞。「（その）名を持つというのなら」。難関大頻出の副助詞「し」識別。直前体言「名に」（格助詞「に」付き）で連用形ではない。

Q100. 答え：過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因） **解説：**完了「ぬ」連用「に」＋「しか」＋「ば」。「に＋しか＋ば」の典型構文。「（玉のような男御子が）お生まれになったので」。源氏物語冒頭・難関大頻出の最重要箇所。